

感謝・感謝

今年の冬は寒く春の訪れが遅かったにも関わらず、桜の花があつという間に咲き満開を迎え散りそうなこの季節です。

彩花のメンバーは、毎年、春の「引越しシーズン」のこの時期を一致団結で遅くまで頑張ってくなしてくれました。この時期ほどチームワークが大切だと感じることはありません。どのような仕事も自分ひとりで遂行できるものではありません。チームすべての人が共通の目的のもとに実践して乗り越えられます。これを乗り越えてまた成長するのです……スタッフに感謝



オアシスにほうれんそう

色々な勉強会に参加して「オアシスにほうれんそう」が大事と教えて頂きました。「オアシスにほうれん草をまきなさい」ということではありません。「オアシス」とは、砂漠の中で水がわき樹木の生えている場所です。そこには色々な動物が集まり、人が集まり、町が出来上がります。慰安となる所、疲れを癒やし心の安らぎを与えてくれる場所なのです。企業にとってこの「オアシス」作りが大事になってきます。「オアシス」を作るにはスムーズな組織運営を実現するコミュニケーション作りからはじめることです。

それには「ホウレンソウ(報告・連絡・相談)」が大事になってきます。

仕事をしていく中でこの3つが繋がって人間関係が生まれます。

人間関係がスムーズにいけば、企業に「オアシス」が生まれ企業は出来上がります。

このような企業を目指し、「ホウレンソウ」を大事に経営していきたいと思います。



新聞の効果

毎月、定期清掃をさせて頂いている整形外科病院があります。日曜日に清掃が入っている女性スタッフからLINEが入ってきました。「お疲れ様です、マネジャー、今、家ですか?」「入院してある患者さんが彩花新聞の1月・2月号を読んでないからほしいとのことでした」という内容でした、詳しく聞くと、この患者さんは彩花がお世話になっている介護施設のスタッフさんでした。ここに入院しているから毎月読んでいた彩花新聞を読んでないのほしいとのことでした。病院で彩花のスタッフの姿を見て声をかけられたようです、すぐ病院に持っていき、無事に届けられました。とても喜んで頂いたとスタッフから聞きました。仕事が作業だけではなく、このような繋がりが新聞を通じて生まれていることを嬉しく思いました。2007年から書き続けて彩花新聞も214号になりました、毎月欠かさないで書き続けて沢山のお客様から「待っています」とのお声を頂きこれからも頑張って書き続けて行きたいと思います。

花粉対策

花粉の時期の花粉対策には、室内の掃除もとても重要になってきます。花粉が多く飛ぶのは9時~15時。人が活発に活動を始めていない朝は、ほこりも花粉もわりと舞い上がっていないので朝のお掃除が効果的です。一度床から舞い上がった花粉は、床に落ちるまでに30分から1時間かかります。ですから、いきなり掃除機をかけても花粉を空気中に舞い上がらせるだけで意味がありません。フローリング、家具、電気製品などはできる限り濡れ雑巾で拭き掃除します。花粉やほこりは舞い上がりやすいので濡れ雑巾でお掃除することで舞い上がりを少なくすることができます。一度床を拭いてから、掃除機をかけるといいでしょう。また掃除機をかける際、引くときは押すときよりも力を弱めにすると床から掃除機が離れず、余計な空気を舞い上げないので確実に花粉や汚れを吸い取ることができます。



綺麗にしたい。それならすぐに彩花へ相談してみたら。

お問い合わせ・お見積もりは、お気軽に!

☎ 0120-400-225

http://www.c-saika.jp/

インターネットで  
お得な情報をGET!

毎日忙しくて、お掃除ができない。なかなか綺麗にならない。高齢のためお掃除ができない。



あなたの家のお掃除隊  
クリーン彩花  
SAIKA  
福岡市早良区貫茂2丁目5-35-2号

# トランプさん、ありがとう

## ■ 損得と駆引き

「DEI」という耳慣れない言葉を初めて聞かれた方も多いと思います。多様性、公平性、包活性という3つの言葉(価値観)の英語頭文字をとったものです。トランプ大統領は就任演説で、DEI政策の撤廃を明言し、「多様性にNO!」の方針を示しました。「米政府の公式方針として、性別は男女の2つのみとする」と発表したこともメディアで大きく取り上げられました。これらはアメリカの保守層の価値観を反映するとともに、人種やジェンダーの「多様性」を重視する施策から、「能力主義」に基づいて人材を登用する方針への移行を示唆したものとされています。反DEIの姿勢は、貿易であれ、国際関係であれ、全てを「ディール(取引)」として進めていくというトランプ大統領の姿勢と一体です。二言目には「ディール」というトランプ発言の背景にあるのは、「損得」と「駆引き」が支配し、MAGA(Make America Great Again:アメリカを再び偉大な国にする)すなわち自国優先、自国第一の価値観です。「ディール」という言葉が当たり前のようになったら、この世は寒々とした景色におおわれてしまうのではと暗澹とした気持ちになります。

DEI:「Diversity(多様性)」「Equity(公平性)」「Inclusion(包括性)」



## ■ 「取引」でない世界の大切さ

力をちらつかせながら対話ぬきで一方的な通告を行い、相手に受け入れを求めるというトランプ手法を目の当たりにして、「注文をまちがえる料理店」プロジェクトのことを思い出しました。宮沢賢治の童話『注文の多い料理店』をモチーフにしたこの料理店の特徴は、注文を取るスタッフが認知症の状態にあるというもの。当然、注文と違う料理が出てきますが、「まあいいか、たいした問題じゃない」「間違えることを受け入れて、むしろ楽しみましょう」と実に大らかです。2017年に始まったこのプロジェクトは、これまで全国50カ所以上で開催されているといえます。「注文をまちがえる」というコンセプトだけでなく、ウクライナ避難民を雇用する東京のレストランや、福岡における外国人観光客に向けた屋台めぐりツアーなど、多様性を重視するレストランが増えています。トランプ流の「ディール(取引)」とは真反対の世界の広がり大切にしたいと思います。

## ■ 世界は経営でできている

1年余りに『世界は経営でできている』という一風変わったエッセイを出した岩尾俊平さんという経営学者(慶應大学商学部の先生)がおられます。岩尾さんは「経営の目的は会社のお金儲けや個人の効用増大が究極の目的ではない」という地点から議論を始めます。そして本来の経営は「価値創造(=他者と自分を同時に幸せにすること)」という究極の目的に向かい、目的実現を妨げる対立を解消して、いい関係性を創りあげていくこと」と再定義し、日常が経営問題でできていることを面白おかしく書き進めていきます。「貧乏は経営でできている」「家庭は経営でできている」「仕事は経営でできている」「老後は経営でできている」・・・と続き、最後は「人生は経営でできている」というものです。恋愛にしてもマッチングとしての恋愛からクリエイティブとしての恋愛に視点を変え、相手を最良の恋人だと思いこみ、関係性を変え、共同性を創りあげていくのが経営だと痛快な論を展開していきます。

## ■ 「仕事」も「生きること」も同じ

トランプ大統領はアメリカという国家を偉大なものにするのを究極の目的に掲げていますが、その国家とやらは人びとが共同でつくりあげた幻想(まぼろし)。岩尾さんの経営論を引き合いに出すまでもなく、究極の目的は一人ひとりが幸せになることだと思います。そのためには、他者(他国)を取り引きや奪い合いの相手ではなく、関わり合いや創り合いの仲間として捉えていくことが何より大切です。GAFaを大声で叫ぶ大統領は偉大な半面教師です。認知症、発達生涯、LGBTQなどを包摂し、それぞれの持ち味を多様性として紡ぎあいながら、「仕事」も「生きること」も相互に楽しんでいくことをトコトン探求していきたいと思う今日この頃です。(らく)

